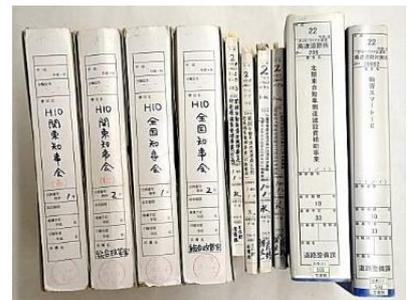
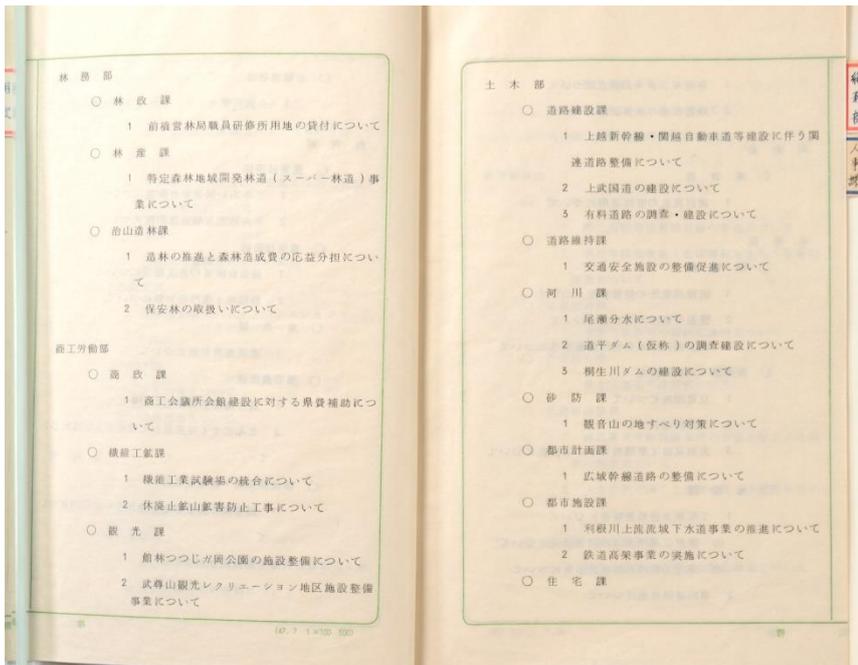


文書館だより

TEL027 (221)2346

URL <https://www.archives.pref.gunma.jp>

第67号 令和5年3月



左：「秘書課 知事の事務引継書（神田前知事より清水知事へ）」（昭和51年）A0121C00 1

右上：神田知事と清水知事のサイン（同上） 右下：令和3年度移管の特定歴史公文書（一部）

この文書(左と右上写真)は、神田知事から清水知事へ引き継がれるときに作成されたものです。昭和51年8月3日群馬県庁において地方自治法第159条の規定にもとづいて事務引継ぎが行われました。目次を見ると、当時の行政で行われていたことが分かります。例えば、土木部を見ると、道路建設課では「上越新幹線・関越自動車道建設に伴う高速道路整備について」「上武国道の建設について」(上武国道:国道17号の大規模バイパス)など、河川課を見ると「尾瀬分水について」(尾瀬分水:只見川の水を利根川に流域変更し、発電や首都圏の工業用水等に利用する計画)などが進められていたことが分かります。当時の行政が現在にどのようにつながっているのかを考える手掛かりにしたり、群馬県の歴史の一部を知る資料として活用したりすることができます。

今回紹介した文書は、令和3年4月1日施行「群馬県公文書等の管理に関する条例」の条例施行後、初めての公文書移管により移管された1,114冊の特定歴史公文書(右下写真)の中の1冊です。特定歴史公文書を読むと、「今までに行政の中でどのような経緯があったのか」、「当時の群馬県はどうだったのか」がわかる文書もあります。文書館のウェブサイトで見つけて、特定歴史公文書を読んでみませんか。

開館 40 周年記念展示「前橋藩から朔太郎へ

～母方八木家と藩士諸家の文書展～」の開催



この展示は、前橋文学館が事務局となった「萩原朔太郎大全 2022」に加わり、全国 52 カ所の文学館・美術館・大学施設等（県内 10 カ所）と連携したものです。8月6日

（土）から令和5年1月15日（日）まで開催し、同時開催したインターネット展示とあわせて1,073名の方に御観覧いただきました。

萩原朔太郎の母方の実家八木家は、前橋藩主松平大和守家（徳川家康の次男結城秀康が祖）の家臣でした。この展示では、八木家を中心に前橋藩士諸

家の文書を紹介することで、朔太郎にも少なからず影響したであろう前橋藩や八木家の歴史に迫りました。

コーナー「華麗なる家臣の来歴」では、〔織田信長黒印状〕（No.1592-10）・〔飛鳥井雅庸書状〕（No.1592-4）・「花押集」（No.1593）を紹介しました。八木家文書（P09702）には、松平家以前に本願寺家臣だった関係からか、中世から近世初期にかけての文書が多数含まれていました。なおその後に姫路藩主だった松平直矩に仕え、以後主家とともに各地を経て江戸時代半ばに前橋にやってきました。

コーナー「殿様と家臣・町人」では、前橋城に在城した5代藩主朝矩と11代藩主直克に関する史料を展示し、八木家文書の「御家譜略記 全」（No.255）・〔松平直克宛行状〕（No.577）などを紹介しました。

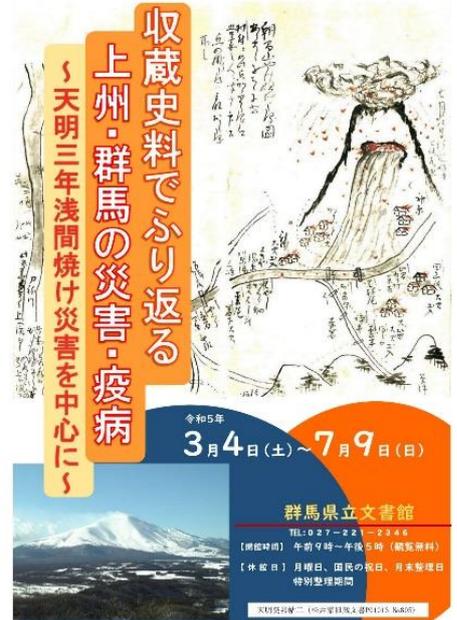
コーナー「八木家と萩原家」では、朔太郎の祖父八木始と父萩原密蔵・母けいに関する史料を中心に展示しました。八木始は、戊辰戦争では半隊司令官として前橋藩兵を率い、会津藩兵と三国嶺（峠）で戦い撃退しています（No.1380 履歴書）。まもなく前橋藩少属から権大属に抜擢、前橋廃藩後には勢多郡長・邑楽郡長など地方官を歴任（No.1563・856）、明治35年（1902）からは旧主松平家に仕え東京の旧主松平家邸内に住みました。始は華族松平家の家政を中心に記録した日誌を残しています（No.119 公私備忘）。「こころ扣」には、萩原けい・朔太郎母子の上京や萩原密蔵との株のやりとりなど私的内容も記されています（No.1510）。また、大正2年（1913）頃に萩原密蔵・萩原けいがそれぞれ八木始に宛てた書簡も紹介しました（No.158・1481）。

この展示を通じ、萩原家と八木家が様々な面で深く結びついていた一端を明らかにできました。なお、文書館では、この展示で紹介したほかにも萩原家関連の資料をたくさん収蔵していますので、ぜひお越しください。

「収蔵史料でふり返る上州・群馬の災害・疫病 ～天明三年浅間焼け災害を中心に～」の開催

令和5年(2023)は、天明3年(1783)の浅間焼け(浅間山大噴火)から240年の節目の年になります。今回の展示では、江戸時代の天明3年に上州を襲った未曾有の火山災害の様相を収蔵史料からふり返ります。また、防災や減災、公衆衛生の観点から、近代以降における群馬県の火山災害や疫病への対策に関する収蔵史料をあわせて展示します。

なお、この展示は「浅間山大噴火から240年・『天明三年』を語り継ぐ」と題した複数の博物館連携企画で、令和5年3月4日(土)から令和5年7月9日(日)までの開催を予定しています(今後、インターネット展示も実施予定。)



展示史料紹介



展示No.②〔天明癸卯帖 二〕(部分)

*松井素輪俳諧日記

天明3年(1783)4月1日～9月14日

縦 18.0 cm×横 19.5 cm (見開き原寸)

前橋本町の本陣の主人で俳人としても知られた松井素輪(まついそりん)が自身の俳諧日記のなかに描いた浅間焼けの被害絵図です。噴火口に近い吾妻川上流域の村々の被害を中心に描かれています。聞き書きのためか大笹村などの位置に誤差(大笹村は実際には吾妻川南岸)が見られますが、当時の上州の知識人が真近で起こった浅間焼けの大災害に非常に強い衝撃を受け、その様子を克明に書き残そうとした様子が伝わってきます。(松井家旧蔵文書 P01013 No.805)

※この資料は、令和5年3月5日発行の「ぐんま広報」インフォメーション内に掲載されました。

学校連携の取組

文書館では、収蔵する資料を学校教育の場で活用してもらうため、学校と連携をした各種の取組を実施しています。令和4年度は、次の三つの取組を行いました。

1 歴史資料をどのように使おう？（「教員向け研修講座」の実施）

総合教育センター令和4年度研修講座「社会科・地歴公民科研修講座」が令和4年9月13日（火）に開かれました。文書館は講座の午後の部「文書館所蔵の歴史諸資料を用いた教材づくり」を担当し、講座を開きました。この講座を文書館で行うのは2回目です。10名の先生に参加していただきました。参加者が高等学校の先生ということで、新しい科目「歴史総合」を想定した研修となりました。

研修講座は、「研修1 文書館の概要や郷土の歴史資料についての解説」と「研修2 郷土の史料の効果的な活用を考えよう（演習）」の2部構成です。研修1は、歴史資料の学習指導要領の位置付けや郷土の歴史資料を教材化することの意義などについて講義を行いました。研修2では、当館で作成した教材化史料（文書館のウェブサイトで公開中）の中から、歴史総合の授業で教材化できそうな「実物の史料」を準備し、参加者に教材化を考えていただきました。それぞれが職員のアドバイスを参考にしながら興味をひかれた史料を吟味し、授業に生かすアイデアを考えました。そして、グループで検討したものを全体で発表し、教材化のアイデアを共有しました。参加者からは「貴重な資料を見たり触れたりすることができてとても良い経験になった。」「資料を導入に用いることで生徒の興味・関心を引き出せるのではないかと思った。」等の感想が寄せられました。今後も歴史資料を生かした授業づくりに取り組み、文書館にある本物の史料を授業で活用してくださることを期待しています。



2 働かってどんなこと？（高等学校・インターンシップへの協力）

令和4年11月29日（火）・30日（水）に、県立高崎北高等学校からの依頼を受け、高等学校主催のインターンシップとして4名の生徒を受け入れました。文書館として初めての取組であり、2日間という限られた時間の中で実施する必要があることから、どんなことを学びに生かしてもらうかを見据えて体験内容を考え、プログラムを作成しました。

1日目は、文書館についての基礎的なことを知る必要があることから、はじめに講義を行いました。生徒は、文書館はどのような施設でどんな仕事をしているのか、仕事をするうえで気を付けなければならないことは何かなどを学びました。次に、古文書係で古文書についての説明を聞くとともに、その日の午後に行われた群文協の研修講座「古文書取扱い研修会」の手伝いと講座の体験をしました。講座の参加者と一緒に古文書の取り扱いについての貴重な話を聞いたり、こよりづくりの体験をしたりすることができました。

2日目は、資料をお客様に閲覧していただく仕事と公文書係の仕事を体験しました。閲覧では、資料の出納（貸出しと返却）や撮影の仕方などを教わり、実際に体験をしてみました。公文書係では、史料の状態調査と書庫整理の体験をしました。史料の状態調査では、本物の絵図を用意し、その大きさを測ったり、傷んでいるところがないかをチェックしたりしました。

後日、学校で行われた学習発表会を参観しました。当館に来た生徒たちは「文書が私たちの生活を豊かにする役割を持ち、その文書を次世代へ残していく仕事をしている」ことや「若者に古文書などへの関心を持ってもらうためにインターネット展示などを行っている」ことなど、当館の役割や現在の取り組みを紹介してくれました。また、インターンシップを通して学んだことについて「何事も丁寧にすることが次の未来につながっていると思います。」という発表を聞き、古文書等の貴重な文書を扱う当館職員の仕事に対する姿勢に気づいてくれたことに感心しました。



3 昔は今とどう違うの？ （小学校社会科の授業協力）

天川小学校では、3年生が毎年文書館に訪れています。ここ数年は、総合的な学習の時間で地域の様子や地域にある公共施設を調べることを目的として来館していました。しかし、今年は社会科の単元「わたしたちの市とくらしのうつりかわり」の学習のまとめでの見学となり、目的が地域の様子や人々のくらしの変化を学ぶことになりました。3年生全員が見学に来ることになったのですが、見学場所が狭いため一度に受け入れることができないので、クラスで時間をずらして来ていただきました。

学習の目的に合わせて、天川町周辺を描いた昔の絵図のパネルや前橋市の昔の様子がわかる写真を掲示したり、昔の小学生の生活が学べるように、明治時代の教科書の複製や昔の双六などを用意したりしました。また、4年生の学習へのつながりも含め、昔の群馬県の様子が分かる「元禄上野国絵図マット」を使った学習体験も実施しました。児童は、今と違う昔の地域の様子に深い関心を寄せ、周りにいる職員にいろいろと質問をしながら楽しく学んでいました。資料を見て学んだ後は、館内見学を行いました。今回見学をしたのは、書庫と閲覧室、展示室です。子どもたちは文書館の施設を見て、驚いたり感心したりしていました。

児童の学習感想には、「いろいろ前橋のことぐんまのことをしれてうれしかった。」「大きな地図は昔や未来のことがわかってすごいと思った。」という学習にかかわるものから、「書庫にある本の数におどろいた。」「おんどやしつどまで決めていることをはじめてした。」という施設にかかわるものもあり、社会科見学を実施した手ごたえを感じる事ができました。

今回の見学を通して、自分の住む地域にある文書館に興味を持つとともに、将来、古文書や公文書に関心をもったときに気軽に利用をしていただくことを期待しています。



ぐんま史料講座開催報告

令和4年10月23日(日)に、講師に川越市教育委員会の宮原一郎氏をお迎えして開催しました。講座は、当館収蔵史料(マイクロフィルム収集文書『松平大和守家記録』)に、川越藩士内池武者右衛門の記録「弘化雑記」(国立公文書館蔵)・「先登録」(川越市立中央図書館蔵)をテキストとし、「幕末の川越藩—『松平大和守家記録』などから探る—」と題し行われました。開館40周年記念展示「前橋藩から朔太郎へ～母方八木家と藩士諸家の文書展～」に関連したものです。

当時川越藩は、相模三浦半島に領地を持っていた関係から、幕府より相州の海岸防備を命じられていました。弘化3年(1846)にアメリカのビッドル艦隊が到来した際には、藩士がビンセンス号に乗り込み異人達と交流しています。宮原氏には、主に「弘化雑記」をもとに、初めて外国人や外国船に接した武士たちの様子を具体的に丁寧に読み解いていただきました。

さらに『松平大和守家記録』などをもとに、ペリー艦隊の来航などに川越藩がどのように対応したのかも読み解いていただきました。松平大和守家や家臣団の川越時代の様子がうかがえる、大変興味深い内容の講座でした。



古文書講座開催報告

Ⅰ 古文書入門講座

令和4年度の古文書入門講座は、受講者のニーズにきめ細かく応えるため、初級編・中級編に分けて開催しました。

残念ながら中級編は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止させていただきましたが、初級編では「数字」「元号・干支」「上州の人名」「かな文字」「上州の地名」などのテーマで解読の初歩を講義しました。受講者の方からは「関連する多くの資料を用いた内容が分かりやすかった」など高評価をいただくことができました。

	回	開催日	講師
初級編	1	7月 9日(土)	武藤 桂 (文書館職員)
	2	7月16日(土)	
	3	7月23日(土)	
中級編	4	7月30日(土)※中止	須藤 聡 (文書館職員)
	5	8月 6日(土)※中止	

2 長期古文書講座

令和4年度の長期古文書講座は、古文書講座のリピーターの方を中心に、既に古文書解読の経験がある方を対象に実施しました。内容に関しても中近世から近代の古文書を扱う講座(A)、近世の冊物類を扱う上級者向けの講座(B)に分けることで、古文書解読経験者の方のレベルや興味・関心に合わせた内容としました。特に近世文書編と近代文書編では昨年度に続き巻島隆先生、丑木幸男先生を講師にお招きし、豊富な史料を駆使して講義をしていただきました。両先生の高度な知識と経験に基づいた講義は受講された方からも高評価をいただきました。

A	開催日	テーマ	講師
1回	9月10日(土)	近世文書概論・近世文書読解演習 桐生新町を中心とした古文書	巻島 隆 (群馬大学非常勤講師)
2回	9月17日(土)		
3回	9月24日(土)		
4回	10月 1日(土)	近代文書概論・近代文書読解演習 疫病・戦争関係の群馬県近代文書	丑木 幸男 (国文学研究資料館名誉教授)
5回	10月 8日(土)		
6回	10月15日(土)	中近世文書概論・中近世文書読解演習 上州の戦国文書と近世初期文書	須藤 聡 (文書館職員)
7回	10月22日(土)		
B	開催日	テーマ	講師
1回	11月 5日(土)	近世文書特論 天明三年浅間焼け災害関連の史料	関口 荘右 (文書館職員)
2回	11月12日(土)		
3回	11月19日(土)		



新たに収集した古文書・新たに閲覧公開した古文書

●新たに収集した古文書

	伝存地・文書群名等	内容等	点数
1	神奈川県 板橋祐己氏収集文書（寄贈）	安中市の米問屋柳沢庄平（一時、安中郵便局長を兼務）宛ての電報送達紙。明治から大正期の商取引に関わるものです。	10点
2	伊勢崎市赤堀町 赤堀恒雄家文書（追加寄託）	近世から近代の村方文書。金子借用証文等があります。	約400点
3	みどり市 赤石幸夫氏収集文書（追加寄託）	近世から近代の諸文書。埼玉県等で購入。	19点

●新たに閲覧公開した古文書

No.	伝存地等・文書群名	内容・点数（請求番号）
1	安中市原市 櫻井保広家文書	村の戸長を務めた家の文書。古文書の他に、中山道沿いの家並や寺社、立派な杉並木が描かれた寛政期の絵図等もあります。 6396点（P1402）
2	勢多郡富士見村（現・前橋市） 古屋直巳家文書	名主も務めていた家の文書。安政4年の「萬覚帳」をはじめとする土地と金銭に関する文書・帳簿が多いです。 303点（P9503）
3	前橋市駒形町 岡崎家旧蔵文書（マルモ）	油屋・酒屋を営んでいた家の文書。幕末の前橋城再築や、本陣に関係する史料もあります。マルモは屋号。 703点（P01503）
4	沼田市下久屋町 倉品右近家文書	大正から昭和初期にかけ、絶大な人気を博した高島華宵の挿絵等が貼られたスクラップブック。江戸期の文書収納箱等もあります。 4点（P08005）
5	碓氷郡松井田町（現・安中市） 中島徳造家文書	中山道の茶屋本陣（お東）の家の近世文書・近現代文書。後者には小学校の授業内容がわかる日誌等の学校資料もあります。 2271点（P8909）
6	前橋市 大島登輝夫氏収集文書	明治から昭和の実際に使われた小学校等の教科書類（一部墨塗り有）と、一級の風俗研究誌「風俗画報」及び、それらの復刻版。 818点（P0109）
7	吾妻郡六合村（現・中之条町） 市川義夫家文書	草津村等の兼帯名主であった家の文書。草津村の温泉宿の客引き、冬住み、硫黄（湯の花）稼ぎに関する文書もあります。 983点（PF0207）
8	多野郡吉井町（現・高崎市） 横尾家文書	高山社分教場を運営していた横尾佐十郎の家の文書。「清温育」の詳細な養蚕日誌の他、北海道や熊本県での伝習活動の文書もあります。 78点（PF9206）
9	多野郡吉井町（現・高崎市） 田村家文書	蚕種製造人・多胡製糸社創立委員として活躍した田村竹次郎の家の文書。米穀・燃料・書籍等を扱った商店の帳簿等もあります。 207点（PF9207）

※No. 7～9は複製本による閲覧となります（請求番号がPFはマイクロフィルム収集文書）。

県から新たに移管された歴史公文書

移 管 令和4年度の文書整理において県庁各所属が廃棄した文書資料の中から、文書館に移管された歴史公文書は826冊でした。(詳細は次表のとおり。)うち保存期間を満了し管理委任が解除となった文書から移管されたものは615冊でした。

管理受任等 令和4年度に管理委任、引継により県の各機関から受け入れた文書は、530冊でした。

令和4年度移管文書の部局別冊数

部局名	冊数	部局名	冊数
知事戦略部	38	県土整備部	245
総務部	13	病院局	6
地域創生部	22	議会事務局	3
生活こども部	46	選挙管理委員会	73
健康福祉部	101	収用委員会	4
環境森林部	193	教育委員会事務局	6
農政部	17	合 計	826
産業経済部	59		

(参考) 令和3年度の状況
 ・移管 1,114冊
 ・管理受任等 794冊

最新刊「双文」38号の紹介

『双文』は、群馬県立文書館の研究紀要です。

発行の目的は、当館収蔵史料や郷土に関する史料の調査・研究、文書保存技術の研究・開発の成果、公文書等の保存・活用の方法、業務内容などを公表し、皆様に提供させていただくことです。

今回の第38号(2022年度)は、次のような内容となっています。

- (1) 翻刻 前橋町年寄関係文書 ～「萬之扣」・「安米札渡帳」抄録～
古文書係
- (2) 公文書管理条例に伴う群馬県立文書館における文書の受入・整理
公文書係
- (3) 群馬県立文書館収蔵「天明三年浅間山大噴火関係史料」の考察
～新堀町自治会文書「浅間山焼覚」・松井家旧蔵文書「浅間山焼け抜けたる図」などの検討～
関口 荘右



※ 平成26年発行の第31号以降は、文書館のウェブサイトにてPDF版を公開しています。

レファレンス事例紹介

令和4年度後半は新型コロナウイルス感染症の感染拡大も落ち着きをみせましたが、昨年度に続き閲覧室の利用等で生じた質問への対応を除く対面レファレンスは、なるべく控えさせていただきます。

その結果、電話・メール等によるリモートのレファレンスが大部分を占めることになりましたが、昨年度を上回る問い合わせをいただきました（1月末時点での比較で80件→99件）。特にメールでの問い合わせは複数の資料を添付していただけることから非常に利便性が高いと感じています。なお対面・リモートに関わらず、古文書解読のレファレンスの場合、時間短縮のためにも、事前に釈文（読める範囲で構いません）の提出をお願いしています。

事例1

<質問>

天明の浅間焼け以前の嬭恋、長野原とくに羽根尾周辺の町並み等の様子を知ることのできる絵図や文書を見ることはできますか？

<回答>

鎌原村に関わる寛文4年（1664）の裁許絵図（羽根尾区有文書 P0106 No.360）や貞享元年（1684）の作成と思われる大笹村・田代村絵図（大笹区有文書 P2002 No.1）を見ると、浅間焼け以前の当該地域の様子がわかりますが、天明3年以前の羽根尾周辺に関して町並みなどを知ることのできる史料は見当たりませんでした。

なお、天明期以降のものであれば文化12年（1815）の羽尾村周辺村絵図（羽根尾区有文書 P0106 No.359）などが比較的当該地域の様子をよくあらわしています。

事例2

<質問>

自宅の仏壇のなかにある宝暦年間の位牌の文字「禅定門」について意味を教えてください。

<回答>

「禅定門」とは戒名の最後につけられる「位号」（よく知られているものに「居士」「大姉」「信士」「信女」などがあります）の一つで、男性につけられる位号です。

各宗派や年代によって違いはありますが、「信士」に次ぐランクの位号、出家得度した信者につけられる位号など様々な決まりがあるようです。特に浄土宗では朝から晩まで5日間かけて、自分自身の振り返りや浄土宗の考え方を学び、最後に念仏の奥義を口伝で授かる「五重相伝」を受けたものに与えられる位号といわれています。

いずれにせよ詳しい意味についてはそれぞれの宗派の専門家である菩提寺の僧侶に聞いてみることをお勧めいたします。

閲覧室からのお知らせ

長引くコロナ禍による利用制限で、当館をご利用の皆様にはご不便をおかけしておりますが、利用時間についてご要望に添えるように、次のような方策を令和5年3月13日から実施させていただきます。

1 閲覧室利用時間の拡大について

予約の状況により可能な場合は、午前・午後を通じた利用ができるようになりました。
(ただし、12:00～13:00は閲覧室から退出していただきます。)

【利用人数及び利用時間について】(R5.3.13～実施中)

新型コロナウイルス感染防止のため、利用人数及び利用時間の制限を行っております。既定の人数又は時間を超える場合はご利用いただけませんので、電話による事前予約をお勧めします。(電子メール等での予約は受け付けておりません。)

○利用人数

1組あたり2名まで

○利用時間

火曜日から日曜日まで(祝日、月末日、書庫整理期間、年末年始を除く)の下表の時間

区分	利用時間	閲覧・複写申請受付時間
午前	9:00～12:00(3時間)	11:30まで
午後	13:00～17:00(4時間)	16:30まで

※予約の状況により可能な場合は、午前・午後を通じた利用(ただし、12:00～13:00は閲覧室から退出)ができます。

事前予約受付電話番号：027-221-2346

2 健康状態申告書の廃止

みなさまから来館のたびごとに、「健康状態申告書」を提出いただいておりますが、廃止いたしました。(R5.1.31)

引き続き、来館時における新型コロナウイルス感染防止対策への御協力をお願いします。

【来館時の確認事項】(R5.3.13～実施中)

当館では、新型コロナウイルス感染防止のため、同ウイルスワクチン接種の有無を問わず以下の条件に該当する方のご利用をお断りしておりますので、御理解と御協力をお願いします。

- ①発熱、咳、頭痛、倦怠感、嗅覚・味覚障害等の症状がある方
- ②入館時の1階ロビーでの受付及び職員による検温に御同意いただけない方
- ③職員による検温の結果、37.5度以上の発熱が確認された方
- ④以下の事項に御協力いただけない方
 - ・入館時のアルコールによる手指消毒
 - ・他の利用者及び当館職員との距離の確保
 - ・飛沫感染防止対策(咳エチケットの徹底、不必要な会話をしない、大声を出さないなど)の実施

今後の行事予定

展 示

- ・テーマ展示1「家康の関東入国と上州（仮）」
8月5日（土）～11月26日（日）（予定）
- ・テーマ展示2「近代ぐんまの戦時下の暮らし（仮）」
令和6年1月13日（土）～3月24日（日）（予定）

講 座

古文書入門講座（6月～7月予定）土曜日 午前10時～12時

長期古文書講座（9月～12月予定 全10回）土曜日 午前10時～12時

群馬県民の日記念・文書館会館記念日行事（ぐんま史料講座）

10月29日（日）



ホームページのリニューアル

令和5年4月1日から、ホームページのURLが次のとおり変更になります。

<https://www.pref.gunma.jp/site/monjyokan/>



■交通のご案内

- ◆ JR両毛線 前橋駅から徒歩25分、バス15分

群馬県立文書館だより第67号

令和5年3月31日発行

編集・発行 群馬県立文書館

〒371-0801

群馬県前橋市文京町3丁目27-26

電話 027-221-2346

題字/岡庭征人書